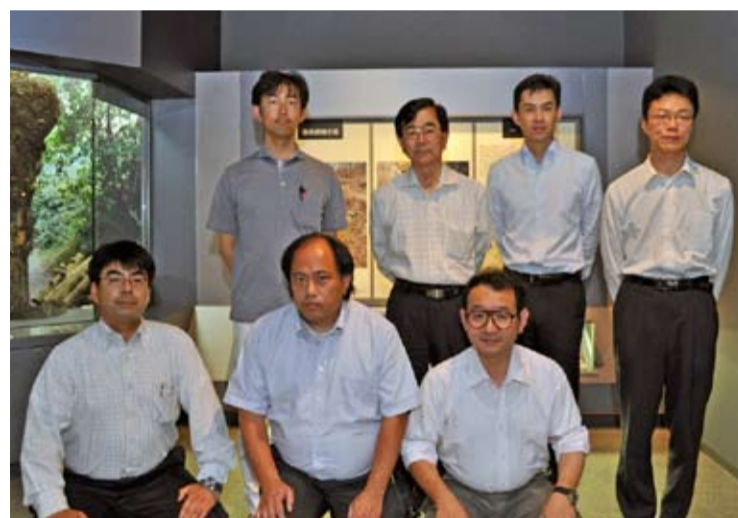


地球科学



私たちは生活基盤である大地をテーマに、様々な地学現象と生物進化に関する調査・研究を行っています。最近には篠山層群の恐竜化石に代表されるように、地域に埋もれた自然遺産の発掘と活用を力注いでいます。

植物と生態系



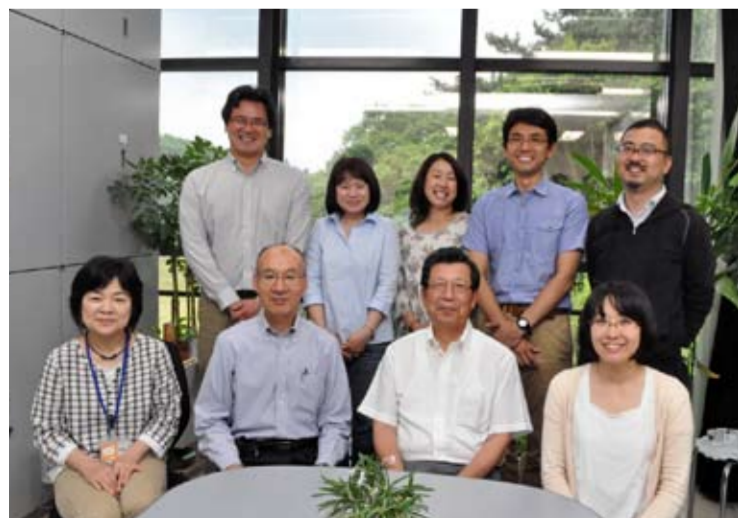
私たちは生物多様性保全を目標とする様々な研究・事業を進めています。植物生態学、保全生態学、植物分類学、土壌学などの観点から絶滅危惧植物の保全や里山・照葉樹林・湿原などの保全・再生・創出に取り組んでいます。

植物と昆虫



私たちは日本から東・東南アジアに分布する動植物の系統分類や、生物地理、生物多様性などを専門に研究しています。その過程で得られる生物標本の収集保管や活用なども精力的に行っています。これからは博物館の基礎を支えるためにがんばります。

環境と地域づくり



景観、都市計画、まちづくり、建築などの視点で、古地図や名所図会(めいしよえ)、古写真などの資料や地域の方々の記憶・知恵を調べ、地域固有の自然・環境・文化などの資源を活かした地域づくりを進めています。

動物と生態系



森・里・川にすむ動物を主な対象として基礎的な生物相互のつながりを解明し、さらに人と動物・人と自然の関わりを築くために地域レベル・流域レベルでの研究を進めています。

博物館を支えるスタッフ



私たち行政職員(総務課、情報管理課、生涯学習課)、フロアスタッフ、警備員等のスタッフは、日々の業務に携わるとともに、館長、副館長や研究員の先生方と力を合わせてひとはくの発展のためにがんばっています。

今回ご紹介できなかった方々については、今後ひとはく新聞で紹介して参ります。

人と自然の応援情報誌

ハーモニー77号 24枚 ②2-003A3

ひとはく新聞

TEL:079-559-2001 (ひとはくの代表番号です)
TEL:079-559-2002 (学校や団体のご利用の方はこちらにおかけください)
TEL:079-559-2003 (セミナーやイベントなどのお問い合わせ先です)

ひとはく二十歳
これまでのありがとう、ここからのエールを

平成4年10月の開館以降、人と自然の博物館は多くの方々に支えられ、様々な活動を展開してきました。二十歳(はたち)を迎える今年度はこれまでの「ありがとう」をこめ、館をあげて多彩な事業を実施していきます。紙面の都合上、ここでは20周年記念事業を中心に紹介させていただきます。



〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)

http://hitohaku.jp



5月19日には美方郡新温泉町の山陰海岸ジオパーク館でシンポジウム「山陰海岸ジオパークの生物地理」が開催されました。ジオパークエリアに特徴的な生物種の分布と境界について、専門家をまじえ楽しく議論・交流することができました。ジオパークエリアでは昨年に引き続きジオキャラバン事業も実施します。会場は京丹後市丹後町の「道の駅 てんき丹後」から、豊岡市日高町の「道の駅 神鍋高原」、鳥取市の「鳥取砂丘ジオパークセンター」へと移ります。現地の魅力的な自然・環境情報を厳選して展示しますので、ぜひお立ち寄りください。



夏休み中の8月21日には「教員のための博物館の日 in ひとはく」を開催します。当日は博物館

と学校の連携をテーマにしたシンポジウムのほか、他府県・他博物館のプログラム紹介、ワークショップなどがあります。また、例年実施している「夏季教職員セミナー」を「教職員・指導者セミナー」にリニューアルし、受講者層を広げて実施します。いずれも自然・環境学習の実践に役立つ情報・ノウハウが満載です。興味のある方はぜひご参加ください。



秋にはとりわけ多くのイベントがあります。まず、9月15日に20周年記念フォーラム、続いて10月13日に20周年記念式典・シンポジウムを開催します。9月のフォーラムでは、後述する移動博物館車の活用について多くの方々との意見交換を図るべく、ワークショップ方式での開催を予定しています。10月のシンポジウムでは、博物館の地域貢献をテーマに、全国から専門家・博物館関係者をお招きし、次世代の博物館のあり方について発信します。さらにシンポジウムの翌日には、現在準備を進めている移動博物館車(博物館機能を備えた車両)と、改修を進めている2階展示フロアを披露・公開します。詳細についてはホームページなどを通じて発信していきます。ぜひご注目ください。



12月2日には、今年度ひとはくと共に20周年を迎える兵庫県立大学 自然・環境科学研究所主催のシンポジウムを開催します。このシンポジウムでは研究所のこれまでの成果、特に県政課題に対応した実践研究と普及教育の成果をご紹介します。そして来年の3月16・17日には恐竜化石国際シンポジウムを開催します。国内外における最先端の研究成果の紹介、恐竜化石の地域づくりへの活用が主なテーマとなります。館内では現在、展示特別企画「丹波の恐竜化石発掘〜6年間の軌跡〜」も開催しています。来館の際にはぜひ足をお運びいただければと思います。

これら季節ごとのイベントのほか、「Kids(キッズ)サンデー」(毎月第1日曜日)をはじめとした通年の事業、「共生のひろば」(2月11日)といった恒例の事業も開催し、20年間分の「ありがとう」の気持ちを伝えます。実施にあたっては、参加・参画していただいたみなさまの声をよく聞き、今後の博物館活動に活かしていきたいと考えています。これからも引き続きご支援いただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

黒田有寿茂 (企画調整室)

ひとはくコラム

ドラッカーの『マネジメント』とジオパーク

昨年、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」という本がヒットし、テレビアニメや映画にもなりました。ドラッカーは20世紀の経営学の基礎を作った人です。彼によれば、企業の目的は社会に貢献し、社会の特定のニーズに答えることであり、そのために顧客を創造し、満足される製品を生み出すことが求められます。そして、その活動を続けるために必要な利益を生み出すことです。つまり、企業にとって利益を上げることは、目的ではなく最低限必要な手段なのです。

さてジオパークは、地形・地質を中心とした、自然や文化などを見どころとし、それを守りながら観光や学習に活かすことで、地域の活性化につなげようとする地域です。現在、87か所の世界ジオパークが存在し、日本では山陰海岸ジオパークを含めた5か所が世界ジオパークに認定されています。そこでジオパークをトピックに考えてみると、その目的は、人々が地域に誇りを感じ、活き活きと暮らせる地域をつくること、そのための活動は、訪れた人に満足される自然景観を維持し、そこからもたらされる物語を伝えることです。そしてその活動を継続していくために必要なのが、観光や販売により利益を得ることなのです。経済的な地域振興は必須ですが、ジオパーク本来の目的ではありません。

日本にジオパークができて3年目を迎える、「世界ジオパークになってもお客さんが増えないじゃないか」という声がありますが、世界ジオパークになっただけでお客さんは増えません。まず地域資源の価値を知り、ジオパークとして地域のブランド力を高めることが大切なのです。ひとはくは山陰海岸ジオパーク内でジオキャラバンやジオセミナーなどを通じ、それを促す活動をしています。

先山 徹 (人と自然の博物館 主任研究員)